

## 〔学 会〕

## 東京女子医科大学学会 第35回総会

## 一般演説の追加・質問・応答要旨

昭和44年9月28日(日)

東京女子医科大学本部講堂

(総会演説の抄録は本誌39巻7号に掲載した)

## 4. 下喉頭神経の性質について

(第1生理) ○小林義晴・草地良作

質問 佐藤イクヨ(耳鼻科) 下喉頭神経, 上喉頭神経の各々の刺激部位はどこですか.

応答 小林義晴(第1生理) 上喉頭神経刺激はその内枝で刺激しました. 逆行性刺激は下喉頭神経の喉頭筋に入る直前で刺激しました.

## 13. 当科におけるくも下膜出血の症例について

(小坂内科) ○飯島彬子・高橋千恵子・黒川きみえ・水野美淳・小坂樹徳

追加 喜多村孝一(脳外科) 動脈撮影をできるだけ早期に全例に行なうように心がけることが大切である.

外科的治療の成績は現在非常に向上しており, 脳外科も協力させていただき, 予後の向上につとめたいと思う.

## 14. 新生児急性腹症と人工腹腔応用について

(第二外科) ○佐野謙太郎・織畑 秀夫  
太田八重子・他5名

質問 草川 三治(尾久小児科) 1) 臨床例は何例ありますか?

2) この方法はどのような症例に対して最も効果があると考えられますか?

応答 佐野謙太郎(第二外科) 人工腹腔応用に関する質問に対して, 例えば, 小児に特有の腸回転異常の場合, 整復してこの人工腹腔に留置して, 整復後の腸の再生をできるだけ長く観察して, 切除腸管を短くする. また回転異常再発に対しても良い方法と思います.

その他 Ruptured omphalocele のような場合, この人工腹腔内に留置して, 充分汚染を除いて自然腹腔内に戻せば, 炎症に対しては全く心配はございません.

新生児手術の際の応用範囲は広いと存じます.

## 16. マイトマイシン C 大量衝撃療法について

(第二病院外科) ○梶原 哲郎・丸野敏次郎  
坪井 重雄・他11名

質問 河野 南雄(泌尿科) 大変興味深く拝聴いたしました. 一つ, お教えいただきたいのですが, 血中フィブリノーゲンと癌との関係が, 現在いろいろ報告されているわけです. この血中フィブリノーゲンの増量について, Tumor そのものによって考えておられるか, それとも Tumor に伴う感染などの reactive inflammation とか, 出血といったようなものか, いずれとお考えか, お教え願いたい.

応答 梶原 哲郎(第二病院外科) 悪性腫瘍疾患患者で, 血中 Fibrinogen 量の増量は, 予後の不良を示すものとして注目されています.

Fibrinogen が腫瘍局所でどのような役割を果すのかは不明です.

## 22. 経静脈性尿路撮影法の現況

(泌尿器科) ○河野 南雄・梅津 隆子  
吉田美喜子・他3名

質問 喜多村孝一(脳外科) Complication はどうですか.

応答 河野 南雄(泌尿器科) 1) Sodium iothalamate を66.8%ふくむ, 製品名 Conray 400を使っております.

2) Complication とのことですが, とくに, いわゆる pharmacologically idiosyncrasy と, allergy の immediate type の全身性の anaphylaxis が問題になると思います.

これに対しては, 直前に造影剤の少量を静注して, 約2分間様子を見てやつておりました, かかる症例は1例も経験しておりません.

なお, われわれがやつております I I V P では, routine の I V P で腹腔上より尿管を圧迫する方法によく